

	S (4 点)	A (3 点)	B (2 点)	C (1 点)
構成	オリジナリティに溢れ、かつ、最も適する形容詞を的確に使用して、出来事に対する印象や感想を表す文章から始まり、その形容詞を使うもとになった具体例へと向かう構成を意識して書いている。A—B—A ‘の構造になっている。	最も適する形容詞を的確に使用して、出来事に対する印象や感想を表す文章から始まり、細部へと向かう構成を意識して書いている。A—B—A ‘/A の構造になっている。	形容詞を使って、出来事に対する印象や感情を表す文章から始まり、細部へと向かう構成を意識して書いている。A—B の流れは確認できる。	出来事や行動といった具体例から始まっており、その細部が続く。B—A の構造になっている。形容詞を使って出来事に対する印象や感情を表すという、大きなまとめがされていない。
時制	時系列を意識して、時制に完全な一貫性がある。動詞の活用形・綴りが完璧である。また、時や話の流れを示す副詞 (句) も効果的に使っている。人称・単複の呼応関係の処理が完璧である。	時系列を意識し、時制に一貫性がある。動詞の活用形・綴りが完璧である。人称・単複の呼応関係の処理が完璧である。	時制に一貫性がない。活用形・綴りに 2 つ以内の間違がある。人称・単複呼応関係の処理が (ほぼ) 完璧である。	時制に一貫性がない。動詞の活用形・綴りが著しく不正確である。人称・単複呼応関係の処理に 2 か所以上のミスがある。
文法・文の所作	Because を使って副詞節を置く場合、必ず後ろに主節がある。複文を複数使って思考の深さを表している。また、独立した短文同士を And/But を文頭に置いて繋げようとしていない (単文と重文を適宜使い分けている)。	Because を使って副詞節を置く場合、必ず後続の主節がある。複文を使って思考の深さを表している。また、独立した短文同士を And/But を文頭に置いて繋げようとしていない。	Because を使って副詞節を置く場合、後続の主節が置かれていない。または、主節が非文である。また、独立した短文同士を And/But を文頭に置いて繋げていない。	Because を使って副詞節を置く場合、後続の主節が書かれていない、または、主節が非文である。また、独立した短文同士を And/But を文頭に置いて繋いでいる。
語数	***** ***** ***** *****	指定された語数の +5 語の範囲で書いている (WC していなければ -1 点)	指定された語数の +10 語の範囲で書いている (WC していなければ -1 点)	指定された語数の +15 語の範囲で書いている (全く書いていなければ 0 点) (WC していなければ -1 点)